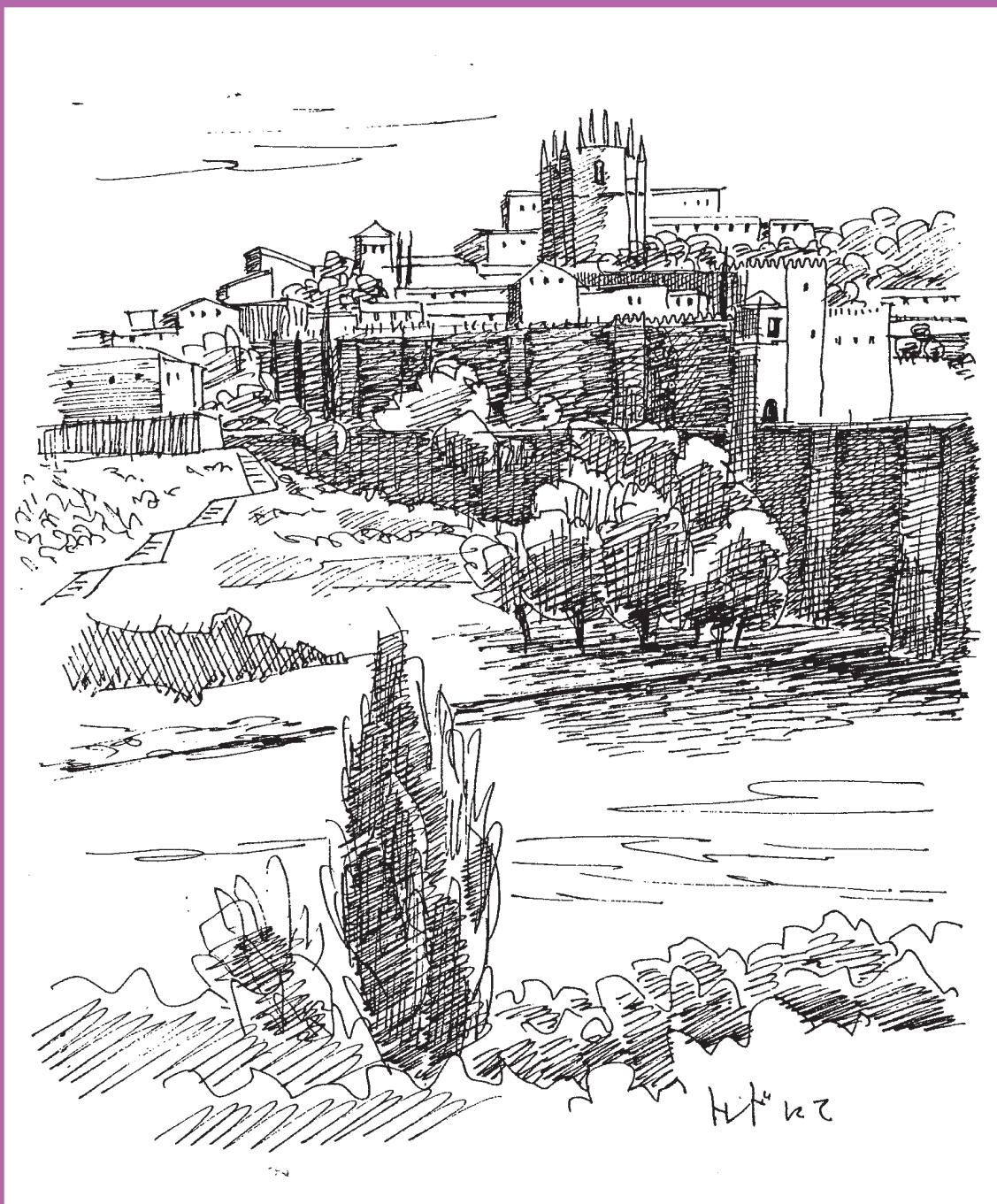


やまさき文化

’08-3 * No.27



穴粟市山崎文化協会

偽の国日本

宍粟市山崎文化協会会長

藤井慧乘

◇ 目 次 ◇

ブラジルにて

飲んだらり、だらだらと

短歌

俳句

山崎闇齊能舞台

研修旅行に参加して

植物同好会に参加して

山崎闇齊さんが語りかけていること

常に「質」と「量」について考える

季節を感じて愉しんで

人生雑感

市展に思う

尺八と洋楽器の出会い

私と箏そして想い

歌うことの幸せ

徒然親心

地域を代表してきたサツキ

若い人達と一緒に！

川柳破丸会

合唱団と私

民踊で年齢忘れる

詩吟、四方山話

平成十九年度の歩み

事務局だより

編集後記

表紙画／カット／
表紙題字

昨年の日本を評価する言葉は「偽」と清水寺管長が大書された。神と国の権威を悪利用した日本にとって最悪の恥かしい事件を、マスコミが報じたのでその様な表現をされたのであろう。まず赤福の問題は、「何事のおわしますかは知らねども、唯有難さに涙する」日本国民の宗教感情を悪利用した、利益優先主義は神を冒涜した行為である。次に防衛省のスキヤンダルは、日本軍人の聖域觀にガードされた中で行われた、考えられない巨額の賄賂大事件であった。共に偽が通れば、全て可であるとした市場原理優先主義の現代の日本である。

然しながら「偽の国日本」とは昨年の日本を表現したもので長い歴史の日本を現したものではない。昨年「文芸春秋」八月号に、世界中から愛された日本の特集が出版されている。日本の代表者が世界に向って、日本の素晴しさを論じておられる。ある外国人は日本の自然の美と、日本人の心情の暖しさを讃めたたえている。例えば日露戦争後、戦勝国日本はロシア兵の捕虜を、四国松山の町に四千六百人収容した。ところがその捕虜を温泉に招待し観光の上、小遣いまで支給して大切に扱っている。日本武士道に伝わる、同情心即ち惻隱の情であろう。第二次大戦後の日本兵がシベリアの重労働に連行された事とは、およそ異った扱いであった。

一月十七日は忘れられない阪神大震災の日である。大きな震動で起こされ、T Vを入れると、神戸で数ヶ所の煙が上っていた。その後二、三時間で阪神の大震災が報道され、ただならぬ大災害の実体に驚いた。神戸と関係のある人々は、自家用車に救援物資を用意して六甲山を越えて見舞いに急行したものである。全国から公的、私的な救援が集ってきた。これが日本国民の持つ惻隱の暖い心である。その心情の具現こそ宍粟の心としたいものである。

大谷八十四	富和昭弘	栗山節子	鳥羽チエノ	三谷恭三	宗平圭司	松本寿子	鎌田裕明	北岡修	春名芳子	山下直昭	福岡久藏	尾島忠義	岡本美穂	小畠英美子	石崎道雄	田口實	河瀬ルイ	山田醉仙	堀このみ	大西タツエ	小川登	大岩清人	前野良造	浅田耕三	荒木俊介
-------	------	------	-------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	-------	------	-----	------	------	------	-------	-----	------	------	------	------

『ブラジルにて』

大谷 八十四

ブラジルにいる夢を見ていた。椰子の林のある海岸に私は独りで立っていた。
縹渺として果てしない海。遠くの岩礁。紺碧。

海の中を歩いてゆく。干渴に出た。水溜まりがあつて奇妙な魚がいる。魚は
大きな目でジロリと私を見た。

潮が満ちてきて、海水が足元を浸す。私は引き返しはじめた。しかし何か変
だ。しばらくしてようやく気が付いた。私が進めば同じだけ岸辺も後退する。
また進んでみたが、やはり同じだ。椰子の林は一向に近づかない。「何故だ?」
私は不安に駆られて満ち潮の海の中に立ちすくむ。

高度成長時代、日本の貿易は好調であった。

最初は鉄鋼、繊維など一、三の品目にすぎなかつたのが、やがて広範囲の商品
群——家電製品、自動車、工作機械など——に広がり、さらに恒常的な輸出ラッ
シュとなつて貿易不均衡を惹き起こした。輸入国は債務超過に陥り、さらに不
況、失業などの社会問題へ発展するに至つた。いわゆる貿易摩擦である。日本
の企業は止むを得ず海外での現地生産という手段をとることになつた。私にも
赴任命令が出た。

(私の独り言)

エ、どこ？ ブラジルだって？ エエツ！ 裏側だろ、地球の。遠いんだ。
女房はなんて言うだろ。どうやって行くのかな。アメリカ経由のサンパウロ
行き、つまり東回りね、西回りつてあるのかな。地図、地図。うーん、ヨーロッ
パ経由になるよね。でも、なんだかピンとこないよ。ア、そうか、世界史の教
科書に出てた大航海時代の地図、あれにすればいいんだ。つまりこのメルカトー

ル図法の世界地図をベーリング海峡からまっすぐ下まで切って、左右を入れ替
える。そうすると左に南北アメリカ大陸、その右に大西洋をはさんでヨーロッ
パ大陸、その右は陸続きでアジア大陸、その下は太平洋の西半分とオーストラ
リア。日本どこ？ あつたよ、右上の端っこ、細い、小っちゃいの。まさに
ファーアイースト！ 極東！ これが奴らの世界観なのだ。

オイ、要るものをお揃えといってくれよ、肌着とかさ。ナニ、気候？ ンーとそ
だっけ、あつちはこれから冬になるんだよ、日本は夏だけどね。きっと変な氣
がするだろうな、七月だのに寒いなんてね。ア、大丈夫だよ、六月から九月に
かけての平均気温は十五度だつてさ。

ブラジルのことを少し調べた。

世界の国の面積を広い順に並べると、ロシア連邦、カナダ、アメリカ合衆国、
中国、そして五番目がブラジル連邦共和国。日本の二十二倍の面積。

地下資源が豊富である。鉄鋼（産出量世界第一位）、マンガン（三位）、ボー
キサイト（四位）、錫（五位）、金、銀、銅、ウラン、クロム、ニッケル、リン、
マグネサイト、タンクスチーン、天然ガス、石炭……。宝石もある。ダイヤモン
ド、エメラルド、アメジスト、ルビー、サファイア、トパーズ、アクアマリン
……。

こんなのに比べると日本なんて何もないのに等しいね。ところがブラジルは
開発途上国として借款が一千億ドルもあるんだけど、そのトップドナーが日本。
有償、無償（！）の資金援助、技術援助。二番目がドイツ、三番目がフランス。
国内の大企業は外国資本との合弁会社が多い。豊富な資源を狙つて外国企業
が群がつているとも言える。

私の乗った J A L 機は十二時間かかってニューヨークに着き、給油をし、
さうに十二時間かかって南米第一の大都市サンパウロのガルーリヨス空港に
着陸した。

ブラジルへ来て二十日余り経つころであった。ずっと多忙であったので髪
がむさくるしくなつていて、私は「今日は床屋へ行こう」と思つて、会社が借

りてくれたアパートへ帰り、着替えてから近くの床屋へでかけた。

店へ入ってゆくと、そこにいた亭主らしい男は「やあ旦那、いらっしゃい。どうぞそこへお掛けになつて」というようなことを言いながら仕事用の椅子を指した。旧式のごついつくりのものだった。私は「髪を刈ってくれ」と日本語でいって手の指で髪を切るゼスチュアをして椅子に座った。

鏡の中には日灼けした日本人がいた。私は思わず「ああ、これが私であったのか」と改めて眺めるような気持ちだった。日本にいたときは少しちがつてゐると思った。しかしこの頃ようやく見慣れてきたブラジルの風物ともどこか違つていて異和感のようなものを感じた。「なぜかな」と思った途端にバルバ(Barbaあごひげ)というポルトガル語が頭の中に浮かんだ。私が「バルバ」と声に出して言うと、亭主は「オッ」というような表情をした。私は指先で自分の揉みあげを指し、あごの下をぐるっとまわして反対側の揉みあげまでもつていった。亭主は「ウン、ウン」とうなづき何か言つた。「わかりやした、ようがす、おまかせなすつて」というようなことを言つたのだと私は自分にいきかせた。

ブラジルにはひげを伸ばしている人がかなりいる。色んな形のひげがある。私はいつか自分もひげを伸ばしてみたいという潜在的な欲望をもつていていたのか知らない。私は日本人としてはひげが濃いほうだから。「見てろよ、俺はひげが似合うんだからな」というふうに。

床屋からの帰り道で、私は行きつけのバールに立ち寄つた。店へ入つてゆくとカウンターの中に立っていたガルソンはオヤ、といった顔をし、片目をつぶつてみせ、席をすすめた。そして前にいるお客様達に「日本の旦那がひげを伸ばしはじめたよ」と言つた。既に顔見知りになつていた常連の客達は一せいにこちらを向き、ニコニコまたはニヤニヤと笑いながら口々に何かを喋つた。

少し離れた席にいた頬ひげをはやした男が、立ち上がってこっちへ来ると大きな声で「メウ アミーゴ(Meu amigo 友よ)」というなり私に抱きついて、もじやもじやのひげを私の頬にこすりつけた。私が呆気にとられて突つ立つていると、テーブル席にいた日系人らしい顔つきの男がこちらへ歩いてくるのが見えた。私はまた抱きつかれるのかと思ったのだが、その男はゆっくりと日本

語で話し出した。

「ビックリナサッタデショウ、アナタハ御存知ナイデショウガ、コレニハワケガアルノデス。ヒゲヲツクルトイウコトハ、『ワタシハイチニンマエノオトコデス』トイツテイルコトニナルノデス。ヒゲハリッパナオトコデアルコトノシルシナノデス。ソレカラ、ヘンナコトバヲカイマスガ『オカマミタイナオトコデハナイゾ』トイウ意味ニモナルノデス」

私はやつと合点がいった。「ハハハ、そうだったのですか、それは大変よいことですね。教えて下さつてどうも有り難う」私はそう言いながらその男と握手をし、「エ マスクーロ (E masculo 男らしいだろう)」と大きな声で言つた。お客様達はまたゲラゲラと笑つた。

ハッピーな夜だつた。ガルソンがついでくれたピンガという砂糖きびから造つた酒を飲んだ。ライムの香りのする甘い冷たい酒がゆっくりと喉をとおつてゆく。

ふと奥の方に、そこにだけぼんやりと光が当たつてゐるようなところがあることに気がついた。それは女の髪であつた。波うつ豊かな金髪がれんが造りの店の中のそれほど明るくない電灯の光を鈍く反射してゐるのだった。私は顔を見たいと思ったが、女はこちらに背を向けて座つてゐる。時々横顔が見えるだけだった。鼻筋はやさしくとおつてゐるが、肌の色は白くはない。

ブラジル東部に美しい混血の女のことを歌つた多くの民謡や物語があることを私は本で読んでいた。一六三〇年領主

国ポルトガルがスペインに併合され、権力を全く失つていたとき、それにつけこんでオランダの船団がブラジル東部へはいりこんでオランダ西インド会社をつくり、砂糖産業を支配した。

二十四年後オランダ人は黒人との混血の子供を残して去つていつたが、その子孫の中には金髪で目が碧く、肌がうすい褐色の者がいる。中



でも女性はモレーナと呼ばれ、神秘的な美しさで男性を魅了するといわれている。私は彼女を見るとすぐに自分が本で読んだことを思い出したのが嬉しかった。

そして今実際に見ている人が本に書いてあったとおりの女性かも知れないと思うとワクワクした気持ちになった。

「ちょっとでいいからこっちを向いてくれないかな、そしたら目が碧いかどうか分かるんだけどな。でも彼女はきっとそうだ、あの髪、あの肌色、きっとモレーナにちがいない」私はピンガのせいでもうひとりとした気分になり、自分勝手なことを考えていたが、ようやくハツと気がついた。彼女の方ばかり長い間見すぎていたのだ。いけない、俺はだいぶ酔っぱらっているぞ、ガルソンの奴はきっと俺のことをさもしい、エチケットを知らぬ男だと思っているだろう。ピンガは強い酒で、飲み過ぎると足をとられて歩けなくなる。もう帰らなくては。

ボーアはいつものように私がアパートの建物の中に入るまで見送ってくれた。ブラジルは治安が悪いのだ。

私が赴任したばかりの頃に「クルマで夜走るときにはね、赤信号でも止まらないほうがいいんだよ」と言われたことがある。「じゃ、どうするんですか」と訊くと「左右から来るクルマがないか見ながら走りぬけるんだよ」「危ないじゃないですか」「そうなんだけど止まっていると強盗や誘拐にあいややすいからね」「こわいですね」

拳銃を持った少年が信号で止まっているベンツの窓をブチぬき、金品を強奪する。こんなことは日常的に起ころる。

銀行強盗や誘拐事件も頻発している。

ある邦人の会社は、給料日にマシンガンで武装した十人ばかりの強盗に襲われた。

その会社では給料日には非番の警察官を雇って警備に当たらせていました。ところがその日はその者が来なかつた。なぜ来ないのであうと言つてゐるところへ

強盗が押し入ってきた。つまり来る筈だった警察官と強盗団は通じ合っていたのだ。腐敗の根はブラジルの社会にはびこっている。

上院議員の選挙のとき、ブラジル北東部の最北に位置する地区の大農場主である候補者は、酒と金を使って住民を選挙に駆り立てた。その結果は、その候補者の得票数が有権者数どころか、全住民数を上回るという珍事が起こつてしまつた。この候補者は後に大統領になった。

自分の親族を何十人も州の役人にした知事もいる。

旱魃が日常化している北東部の乾燥地帯の灌漑事業が進まないのは、水利のよい土地をもっている政治ボスが反対しているからだといわれている。

ブラジル北東部は大西洋沿岸に雨の多い肥沃な農耕地帯がある。しかしここを越えて内陸部へ入ると半砂漠の荒野が西へ延々と千キロもひろがつていて。そこは雨期になつて雨が降ると三日もたてば花々が一せいに咲く。痩せさらばえた山羊やロバはみるみる肥り、作物は三ヶ月で収穫できる。

このような土地の魅力に惹かれて住み続ける者もいる。しかし雨期は一月からだが、二月や三月になつても雨が降らないと、住民は干上がつた川底を掘り下げて、しみ出した泥水をすくい上げる。それだけが得られる水のすべてである。

二、三年もこのような旱魃が続くことがある。大抵の住民はこの過酷な土地を捨て、国内難民となつて大都市へ流入する。その数は年々増加し、何十万人、何百万人となつて都市の周辺にスラムを形成する。

この難民がブラジルの大きな社会問題であり、世界で最も貧富の差の激しい国のひとつといわれる格差社会を生む原因となつてゐる。

スラムの子供達は学校へ行かず、街で物乞いやかっぽらいをする。少年達は暴力団に使われて武器を持つことを覚える。警察官は少年といつても武器を持つている者を危険を冒して逮捕しても一八才以下では軽い刑罰しか適用されない。

増え続ける少年犯罪に業を煮やした取締まり当局は少年犯罪の根絶を掲げて、逮捕した少年達を裁判手続きを経ずに殺してしまうことを考えついた。どうしてそんなことができるのだろうか。

逮捕した少年達を連行途中や警察署内でわざと逃げられるような隙をつくり、逃げ出したところを狙って撃つ。「逃げ出したから止むを得ず射殺した」ことになるのである。

観光業者が金を使つて警察に圧力をかけたのだともいわれている。治安が悪いと言う評判がたつと外国からの観光客が減るからである。有名なりオのカーニバルでも観光客が少なくて盛り上がりなかつたことがあつたらしい。

私のいた自動車製造工場で一人の工員が無断欠勤を続けていた。彼はエンジンの組立て工で名前はカルロス・ジョゼといい、ラテン系らしい深い目元と笑うときれいな歯並みのみえる人なつっこい顔をした青年であった。チエーンに吊り下げられた未完成のエンジンが彼のところへ回つてくると、きめられたとおりに部品を取り付けてゆく仕事をしていた。

彼のような工員は初め臨時の掃除夫のような仕事で採用される。仕事がだらしなかつたり、欠勤が多い者が少くないのだが、仕事ぶりが眞面目な者は簡単な組立てのしごとをさせてもらえるようになる。そして少しづつ複雑な仕事を任されるようになつっていく。

ブラジルでは無断欠勤、無断退職はざらにある。だが労働力の供給が不安定であることは生産能力を低下させ、企業の足を引っ張る。

現場の責任者はカルロスを職場へ呼び戻したいと考えて、事情を調べたらしい。

カルロスが最後に出勤した日は金曜日だった。彼は貰ったばかりの週給を家へ帰る途中で脅し取られてしまった。そして、そればかりではなく彼はそのあとすぐに、金を強奪した奴等とは敵対関係にある暴力団へ自分から入つてしまつたらしい。

その報告を聞かされたとき、その場にいた者は畠然とした。誰も口を利く者はいなかつた。暫くして誰かが「あいつは馬鹿だ」と吐き出すように言つた。

しかしその後は「そうだ」とも「そうじゃない」とも言う者はいなかつた。絶望的で、暗澹とさせられる何かを皆が感じているようだつた。

街角のちょっとしたカツアゲなど毎日あちこちで起こつてゐる。だからといって、それらがひどいものでないとは言えない。

奴等は人通りの少ない場所で、カルロスが通るのを待ちかまえていたのだ。

すばやく取り囮み、ナイフを見せつけ、せせら笑いながら言う。「かわいい兄ちゃんよ、早くお母ちゃんのところへ帰りてえだろうが、俺はおまえに用ができたんだ。おまえが持つてる金は俺のだ、俺が今決めたんだからよ。おまえの淫売の婆あには渡されねえんだ」言うなり奴はカルロスを殴り倒した。彼を痛めつけ、金を奪つて立ち去る。

彼の顔は血や土で汚れている、唇は屈辱のため歪んでいる。彼はヨロヨロと立ち上がって、さっきの奴等とは張り合つてゐる暴力団のところへゆく。「金を盗られた、仲間に入れてくれ」

彼はじきに脅迫や強盗をやるようになるだろう。盗んだオートバイに女をのせて乗りまわしたりするだろう。そして麻薬の売買や、大がかりな強盗や、営利誘拐や、依囑殺人をもやらされるかも知れない。警察に捕まり、地獄よりひどいといわれている刑務所へブチ込まれるだろう、何度も。そして本物の凶悪な犯罪者になつてしまふだろう。

彼の母親、可哀想なおふくろさん。彼女の愛する息子は極悪人になつてしまふだろう。彼女は刑務所へ面会に行く。そこで、みじめな息子の姿を見て彼女は涙を流す。

『悲しみの聖母』と呼ばれているマリア像がある。像のマリアが涙を流すのを見た者が何人もあるというので人々の信仰を集めている。遠くからの巡礼も来る。

私は夕方になつても気が晴れなかつた。酒を飲まずにはいられなかつた。いつものバールへ行つたが、時間が早かつたせいか店はすいていた。ガルソ

ンはだれもいなかウンターで手持ち無沙汰のようすだったが、私を見ると「トウードベン セニョール (Tudo bem senhore いらっしゃいませ ご機嫌いかがですか)」と言つてニッコリ笑つた。その笑顔がカルロスを思い出させて、私は胸が痛んだ。

入り口の方で「トウードベン」といつている声がする。お客様が入つて来たら少したつて「コンバンハ」という声が背後でした。思わず振り返ると、以前この店で出会つた日系人の男であった。そして連れの女性はあの美しい金髪の混血の女であった。

「オ元気デシタカ」とその男は気軽な調子で声をかけたが、私はとっさに答えるにはあまりにも気分が重すぎた。

彼は、私が返事を口ごもつたのをすばやく見てとったのか「ココヘスワッテモイイデスカ」と言った。私はようやく気を取り直し、立ち上がって「どうぞ、結構ですよ」と言うと彼は私の隣の椅子を自分で引いて女を座らせ、自分はそ

の隣に座つた。私は少なからず驚いた。ふつうなら女を連れていると、あまり

よくも知らない男と同席したりしないからだ。

しかし彼は一層にこやかに「ひげガキレイニナリマシタネ。トテモヨクオニアイデスヨ。日本デハひげヲツクッテイル人ハアマリイマセンデシタガ……」

と言つてしまつてから「おっと」とでも言いたげな表情をした。「おっと、口が滑った」ということかな、と私は思つて「日本では、とおっしゃいましたが、あなたは日本にお

られたことがありますか」と訊いた。

多分彼は私がカウンターで独りでいるのを見て、声を掛けてくれたのだろう。人なつっこい性格だといつてしまえばそれまでだが、一般にブラジル人はやさしくて思いやりがある。人を喜ばせるのが好きなようだ。人を楽しませて、自分も楽しむ、というふうにみえる。

「若イトキニ日本へ留学シマシタ。ソノ後モ法



律事務所デ勵イティマシタ。国際弁護士ニナロウト思ッタモノデスカラ。八年間日本ニイタコトニナリマス

「ホウ、でもやつと分かりましたよ。あまりにも日本語がお上手なので不思議に思つていたのです」

「私ノ祖父モ祖母モ日本人デス。移民デシタ。母ハねいていぶノ血ガ混ジッテイマスガヤハリ日系人デス。家デハ皆ガ日本語ヲ話シテイタノデ、私ハ子供ノコロハボルトガル語ガ苦手デシタ」

話をしながら顔を見ていると、彼は仲々いい顔をしていると思えてきた。

ブラジルは人種のるつぼと言われている。ラテン系、アングロサクソン系、ゲルマン系、スラブ系、アラブ系、アフリカ系それにネイティブインディアン。このような人種と、その混血という雑多な人種の中で、このアジア系で切れ長の目の顔はキリリとしているが穏やかで、人の心を冷静にするようだつた。

私は、日本人の血を濃くひいてはいるが、ブラジルで育つたこの男にカルロスのことを話してみたいと思いはじめていた。

彼なら日系の企業で働くブラジル人の若者の立場について、我々には推し量ることができない理解があるにちがいない。

私達は隅のテーブルに席をかえた。

「ブラジルノ国旗ハ緑ト黄色ガ使ワレテイマス。緑ハ熱帯雨林ヲ表シ、黄色ハ黄金ヲ表シテイルノデス。シカシ緑ガ乏シク、地下資源モナイ土地ガ国土ノ二〇%モアルノデス。『神ニ忘レラレタ土地』トカ『血モ涙モ乾クトコロ』トイワレル乾燥ノ大地デス。ソレハ北東部ノ内陸地方デ、日本ノ四倍ホドノ面積ニ四千二百万人ガイマシタ。昔ハ乾燥ニ強イ綿花産業ガ盛ンデシタガ、あめりカ南部ノ大規模栽培ニ押サレテ衰退シテシマイマシタ。沿岸地帶ノ肥沃ナ土地デハ、昔モ今モ砂糖きびヲ栽培シテイマス。ぶらじるガえたのーる車ヲ増産シテイルノハ、砂糖きびカラあるこーるヲ造ッテ砂糖産業ヲ有利ニスルタメナノデス。砂糖豪族ノ子息ハボルトガルノこいんぶら大学ニ留学シ、法学部出身者ハ帰国スルト司法行政ヲ自分達デ独占シマシタ。コノ地域ノ国立大学法学部ハ今デモコノ伝統ガ残ッテイテ、卒業生ハるびーニだいやもんどうチリバメタ大

キナ指輪ヲシテイマス。工学部ハえめらるどニだいやノ指輪デス。えりーとノ
しんぼるトイウワケデス。

ぶらじる政府ハ二〇三五年ニハどいつ經濟ヲ抜キ、二〇五〇年ニハ經濟大国
五位ニ入ルト豪語シテイマスガ、ぶらじるデハ今デモ褐色人種ヤ黒人ノ資金ハ、
同程度ノ學歴ヤ技術ガアツテモ白人ノ半分デス。コレハ人種差別ガ作り出シタ
階層社会トイウベキデシヨウカ。

ぶらじるモ以前ハ中產階級ヲ増ヤソウトシテ勤労者ノ税金ヲ低クシマシタガ、
スグ赤字財政ニ陥リマシタ。ナゼナラ税金ヲ多ク納メテクレル筈ノ金持ハ賄賂
ヲ使ツテ脱税ヲスルカラデス。結局、勤労者ハ高イ税金ニ苦シムコトニナッテ
シマイマシタ。

硬化シタ階層社会ノ下層カラ脱ケ出スノハ容易ナコトデハアリマセン。昔、
首ニ石ヲ结ビツケテ金ヲ採ルタメニ川ニ潜ッタ人達ガイマシタ。肺ガ破裂スル
危険ガアルノデスヨ。

今デハ貧シイ若者達ハ正当ナ手段デハ自分モ家族モ生キテユクコトガデキナ
イト知ツテ盜ミヲスルヨウニナッタノデス。イツマデ経ツテモ自分達ダケガ干
カラビタばんヤ肩ノ野菜シカ食べラレナイ生活ヲ我慢シナカツタカラトイツテ
誰ガ彼等ヲ責メルコトガデキルデシヨウカ。

彼等ノ生活ニ強ク根ヅイテイル要素ガ三ツアリマス。一つハ『今日ノ命ヲ生
キヨ、明日ハ死ヌカモシレナイカラ』デス。仕事トイツテモ強盗ヤ麻薬ノ売買
ナドデスガ、ソレガウマクイッテ金ガ入ルト仲間同士デ豪勢ナぱしていラシタ
リ、自分ノタメニ外国製ノ贅沢ナ衣服ヤ靴ヲ買ッタリ、恋人ヤ母親ニ高価ナぶ
れゼンとヲシタリシマス。

實際ニ明日ニモ警察ノ取締マリデ射タレタリ、暴力団ノ抗争デ命ヲ落トスカ
モ知レナイカラデス。

第二ハ『復讐ノ撃』デス。自分ヤ家族ノ者ガ侮辱サレタナラ必ズ復讐ヲシナ
ケレバナリマセん。シナイト馬鹿ニサレマス。かるろす君ノ場合デモ、彼ガ仕

返シヲシナイト分ルト、奴等ハ次ノ週末モ、ソノ次ノ週末モ彼ヲ狙ツテ給金ヲ
巻キ上ゲルデショウ。結局彼ハヤツテユケナクナツテシマウノデス。

第三ハ『まりあ信仰』デス。彼等ハ自分が悪事ニ手ヲ染メネバナラナカツタ
ノハ、社会ノ仕組ミノセイダトイウコトヲ知ツテイマス。母親モ息子ガソノタ
メニ罰セラレタリ、殺サレタリスルノハ不当ダト思ツテイマス。デスカラ彼女
ハ息子ガドンナ悪事ヲ働くコウト息子ノ味方デス。

刑務所ノ中ニモ聖母まりあノ礼拝堂ガアリマス。彼等ハ熱心ニ祈リマス。
『慈悲深イ聖母まりあ様 倆ヲ憐ンデクダサイ。アナタノ許シヲ乞ウ者ヲド
ウカオ救イクダサイ』

彼はそこまで言うと顔をあげ、表情を和らげて言った。「日本ニモまりあ様
ガイマスネ」そして少し首をかしげながら手を或る形にしようとした。私はす
ぐに彼の意図が解った。彼は女人の姿をした仏像の手の形を真似ようとしてい
たのだった。

「観音様です、観世音菩薩 悲母觀音——同じだ、マリア様と全く同じだ」

私は思わず叫んだ。

苦しんでいる人間を憐れんで、現世の苦難から人間を救つてくださるという
慈悲深い女人の菩薩——昔から世界中にマリア様や觀音様がおられて、哀れな
人間どもはその庇護に縋つて生き続けて来たのではないだろうか。

私は我を忘れてモレーナの目をみていた。こんなに碧い目を今までに見たこ
とがない、と思った。

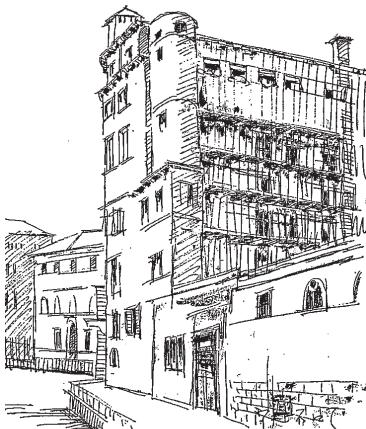
マスメディアは外国ブランドの衣類や鞄、高価な装身具やレジャー用品や高
級車などの宣伝をシャワーのように流し続けている。

土曜日になると海岸のリゾート地へ通じる道路は一方通行になる。行政機関
がその措置をとるのが習慣になっている。道幅いっぱいの自動車はピカピカも、
オンボロも海へ、海へ、海へ！ 逆の方向へ行こうとする車はわき道へ迂回す
るしかない。

海辺では、人々はあまり泳ごうとはせず、ひたすら寝そべって時を過ごしている。まるでずらりと並んでいる大きな電池が一せいに充電をしているように見える。きっとそうなのだ、混沌としたブラジルの社会で生きているうちに、すり減つて、乏しくなってしまった何かを補充しているのだ。光と、海から風の中で。

日曜日の午後は家へ帰る車で道はいっぱいになる。ちゃんと一方通行になっている。道ばたで止まっている車がある。家へ帰るのをいやがっているように見える。実はガソリンがなくなってしまったのだ。しかし彼らはガソリンを買えない足す金などもう持つてはいない。

今日の命を生きよ――



第一十九回春の芸能祭ご案内

日 時 平成二十年五月十八日（日）

午前十時から

場 所

宍粟市山崎文化会館（サンホールやまさき）

主 催

宍粟市山崎文化協会・財山崎文化振興財団

後 援

神戸新聞社・宍粟市教育委員会

会員の日頃の練習の成果を、ぜひご覧くださいますよう、
ご案内申しあげます。

参加部門 山崎詩舞道連盟 山崎邦楽邦舞研究会

さつき民踊グループ 播州山崎太鼓

山崎民謡連合会 宍粟市やまさき老人大学

その他宍粟市内より賛助出演

飲んだらり、だらだらと

富和昭弘

(山崎町出身)

しよう」「老春時代は——♪」と半醉のなか焼酎のお湯割りをのんびりと手に取る一日であった。

(某月某日)
東北地方のある小さな町の助役さんより電話を受ける。十二、三年前だったか山間の過疎地方で始めた「町おこし」の結果がぼつぼつと出始めたから一度見にこないかとのお誘いだった。

(某月某日)
久しぶりの秋空のなか市民運動会に参加した。地域対抗戦だと云うので各町内自治会ごとに大いに盛り上り何十年ぶりかで童心にかえった。なるべく足腰に負担の掛からないゲームを選んで出場したのだがつくづくと「年齢」という事実を痛感させられた一日であった。

中学生の頃だったと思うがある担任の先生が内申書のなかで「粗忽者、但し努力すれば大成する」と評されていたと後日教師であった母から聞かされ大笑いしたことがある。粗忽者であることでは今でも変らないが努力の方は今日まで自分なりに頑張ったかなと思う事実も記憶もあまりないし、又才能も能力も不足だったためだろう。大成するには程遠くだらだらと日々を過ぎて来たようだ。現在に至っても「あれをやらなきゃあ」「これもやりたい」と資料を揃え材料を準備し用意万端、ところがいざという時になかなかアクセルが踏めないのだ。そのうち、そのうちにとだらだらして一日、二日と時間が過ぎていく。廻りに起る話題や事件にあれこれぶつぶつとまるで落語話のなかの長屋の大家さんの如く口先だけが忙しく働くしがない日々になってきた。「大変だ！」これは絶対に「老い」の始まりと肝に銘じ気を取りなおし「やれ芸術だ」「いや忍術だ」「これは算術かもしれない」と頑張り始めるのだが掛け声ばかりで継続していく根気が無くなってきた。滅入り込むばかりだ。波乱万丈でもなく順風満帆の人生にも当てはまらずにこのまま終るのは少しばかりの悔しさもあるのだ。最後にもう一点でも多く自信作品を残しておきたいとの想いもまだまだ持ちつづけていた。青春時代にもこれといった思い出も頭に浮ばない現在以後残り少し時間をどう過していくべきかと今頃になつて気付くのもいかにだらだらと生きてきた証しだ。情けないことだ。

さてぐちぐち考えても始まらぬ「エイ！」ともう一度ボロ中古のエンジンをかけなおし毎日を楽しく仕事をしよう。今が老春の旬だと。「老春時代を謳歌

彫刻家を目指し上京、美術大学を卒業したが當時理科系とは月とスッポン、明日の食事もどうかと思われる頃、担任の教授の「三十過ぎまで十年間は制作を続ける、そのうちに他の者がやめていくから残つていれば何とか食つていけるよ」との一言を頼りに才能も金も無い無いづくりのまま制作を続けていた。一九七〇年代に入り日本経済も大きく上昇した。「これからはパブリックアートの時代だ」と強引に仲間を集め芸術運動を始めた。全国各地、大小、あれこれと、公園に公民建造物や施設に街のなか山の上に海岸にと猛烈にアタック、モニュメント、レリーフ、壁画等々作りまくったが現時点に至つてみると何か胸の中に充実感が無く反対に空虚な思いがある。何故だろうと考える。芸術も不変でないのかもしれない。パブリックアートそのものが設置された地域の人々の生活の場に溶け込み愛されてきたのかどうか疑問が残るのだ。現在も創作された当時の意図を持ち続けているのかと作家としては虚しさがぽっかりと胸中に漂う。制作者としてはこれ以上のものは考え方ないと自負していたものが時代と共に廃れていくものかと。五十年後、百年後にも残されているような作品を作りたいと頑張ったことをふり返つて見るとなんとも空しい気分だ。もう一度芸術とは何かと考えなおしてみたいと思う。

今日の助役さんからの電話ではたくさんの町の人々が協力的になり楽しみながらボランティアで山の手入れに参加しているという。当時これといった産業も予算も無い無いで始めた町おこしだった。町の有志の人達と話し合い議論を重ねているうちにふと思いついたのが街並みを見下す峰から見える正面の山に桜と紅葉を植えつくすという単純なアイディアだった。「桜のほうは数年後より咲き始め観光客もちらほら姿を見られたが十年近くたつた一昨年あたりより紅葉も立派に色付きはじめ今年の秋には相当な紅葉狩りの客を呼べそうだ」とのこと。こうした連絡を受けると一日が愉快だ。パブリックアート魂なんてどこかへ吹つ飛んだのか半醉の頭では結論が出ない。「当時は木を植え続けるこ

とだけで頭が一杯だった。今峠から見ると山がモヒカンに色付きはじめた。困った、困った」との心配顔だった助役さんの声が弾んでいた。

(某月某日)

最近テレビのワイドショーでスポーツニュースの話題が賑やかだ。大相撲、ゴルフ、大リーグなど毎日飽きもせず見ることになる。「巨人、大鵬、玉子焼」と騒がれた頃がずいぶん遠い昔のようで懐かしい気がする。

まだ美術大学の学生だった頃、彫刻のある教授の中学生時代の友人が相撲部屋の親方だというので早朝に稽古を見につれていってもらつたことがある。稽古の激しさも驚きだったがこの部屋に当時売り出し中の大鵬関がいた。大関になつたばかりの頃だったと記憶しているがチャンコを食べながら話しているうちに生れ年が同じ昭和十五年五月であり巨人軍の王選手も同じだということがわかった。私も同じ十五年五月生れである。玉子焼は別として同年同月に生命を受けながら二人の輝きと将来の多大な夢に恐れ入り氣後れしたまま自分にはどんな未来が開かれるのだろうかと不安と焦りを痛切に感じた時があった。幸いにも学生時代より担任教授の制作助手を勤めていた関係で岡本太郎氏の助手として食べていけるだけの職を得た。岡本太郎氏は画家でありながら彫刻、陶芸、哲学、民族学、社会評論などいろいろな方面、分野で大活躍を始めたばかりの頃であった（岡本氏本人は自分の職業は人間であると常々話しているのでどうしてもアトリエでの仕事が私の責任と負担が自然と多くなつていった。まさか三十数年も一緒に仕事をすることになるとは夢にも思わないことだった。岡本氏には想像もできないような発想の才能がありその都度慌てさせられた。岡本氏の彫刻制作の仕事ぶりはすべて全くの無頓着なやり方で技術、用具などまるで無関心、鉈と木棒でぶつたたくだけである。普通原型を作るには心棒材に粘土をつけたり削つたりしながら仕上げていくものだが「ネバネバは嫌いだ」の一言で最初から粘土使用を諦めた。そこで考案出したのが原型を石膏で作る技法だった。粘土の変わりに心棒材を石膏で固め重ねていく、これを鉈と出刃包丁でたたき削るのだ。これは彼に多いに気に入られた。鉈を力いっぱいたきつけ、出刃包丁で削る、石膏の欠けらや屑があちこちと飛び散るのが豪快だ。製作中を取材に来たカメラマンが喜んでいつも同じ注文をつけるものだから益々気合いが入り最後には原型の姿、形も無くなることも度々だった。おかげで壊れた原型を修理、最復元のため心棒作りがずいぶんとうまくなつた有様だ。こ

の方法は岡本氏の最後の制作まで続いた。「太陽の塔」の原型が鉈と出刃包丁で出来上がったとは今でも誰が想像出来るかと全く愉快である。壁画、モニュメント、造園、建築とあらゆる造型に関与させてもらった事で何でも屋になってしまった。現在この経験をどう役立てているか疑問を感じている。その道一筋も又人生のあり方であり、総合商社より個性豊かな専門店だとも思わないでもない。

大鵬関も王選手も現役を引退、それぞれ功なり名とげ昭和十五年五月生れを輝しい年にしている。ここにも一人同年同月生れがいるのだがまだ忙しくかけずりまわり功成りとは程遠くだらだらと過している。

岡本氏の口ぐせだった「コップの中に酒を残すのは酒の神に失礼だ」を思い出しながら冷えた焼酎のお湯割りを啜つていると郷里（もちろん山崎町）の先輩から電話が入る。昨年松井叔生展ではずいぶんとお世話になった。「もうぽつぽつ御出勤でっか」「まだまだこれからだすー」これがほどほど酒の始まりだ。昨年よりこのほどほどに執着している。電話のあった先輩の口ぐせだったのを命名したのだが私にとって郷里を想う重要な要素の一つになつてている。何がほどほどなのか、同席者か場所か酒の種類なのかすべてがほどほどなのである。このさっぱりわからないところが気に入っている。訳もなく何となく酒の種類も話題もまたちまちただただ何げなくだらだらと飲む。すべてが行きあたりばつたり。このほどほど酒が一番嬉しい。ただし何を何処で飲む。すべてが行きあたりばつたり。このほどほど酒が思い出さないのが又楽しいのだ。まわりではただ飲みたいだけじゃないかといわれているが……先輩、ほどほど酒、味わいに近々帰ります。よろしく。

著者のプロフィール

彫刻家	鎌倉市台5-11-2 パブリックアートプロデューサー 社団法人 日本建築美術工芸協会 正会員 運営委員会 角富和創造計画研究室 代表取締役 日本彫刻美術㈱ 役員 (株)和 建築設計事務所 役員
1940年	山崎町鹿沢生まれ
1963年	武蔵野美術大学 卒
1960年	彫刻家 向井良吉氏アトリエ
1964年	岡本太郎氏 助手
1967年	(株)現代芸術研究所（岡本太郎事務所）
1980年	(株)現代芸術アトリエ（岡本太郎アトリエ）設立
1991年	(株)アトリエ・モダンアート 設立
1998年	(株)角富和創造計画研究室 設立

短歌

合同歌集『青山脈』

鑑賞

青山脈

山崎歌人協会 栗山節子

歌集『青山脈』は、昭和五十六年山崎歌話会結成五十周年を記念して出版された合同歌集で、故人を含む十八名の作品が集録されている。

出版当時、山崎歌話会について、松本富治氏が「五十年の歩み」として記されている一部を紹介する。

「山崎町には安井俊二氏を中心とする「不死鳥社」があつて作歌活動を続けていたが、会の名称は「歌人社」「山崎歌談会」と変遷し、昭和七年に「山崎歌話会」となった。」とある。

この度『青山脈』を再び繙き、城下町山崎の文化の伝統と、先人先輩諸氏の作品にお人柄を偲びつつ、独断と偏見でお一人一首を抄出し順を追って紹介することにする。

小旅抄 稲村幸子
。崩れゆく砂踏む心さびしきに繋がれて立つ小さき駱駝は
。渴仰に似たる念ひに遠く来て越路の雪をきくきくと踏む

- 夫の停年 井口 隆子
。何が何に効くとは知らず赤白黄鉢の如き錠剤を飲む
- 。停年になりたる夫が行く先を言はず出でゆき黙して帰る
- 。どんがらの杖 大井 秀子
。どんがらの杖とふ軽き杖を突く虎杖殻とはつゆ知らざりき
- 。忘れ得ぬことも忘れし貌をしてありふる日日に花は終りぬ
- 。川のほとり 大前 静枝
。細く長く落す灯の影其處のみに流れを見る夜の揖保川
- 。夫はしも吾の依頼を半ば聞きて今日も何處を自転車漕ぐや
- 。古都紀行 安井 俊二
。穂先ある筆千年の時を経てうつとに見ゆるかなしさを思へ
- 。小旅抄 稲村幸子
。桃なせるお臍真中にある腹はいたく小さし墨絵の菩薩
- 。移りゆく季 山崎きよ子
。病む吾子の水を割れる夜の厨おどろきやすし己が影にも
- 。漱江に吹く風寒し川千鳥汝が啼く
- 。声のひもじかりけり
。この弾にあたりて死ねば樂ならむと思ふときふと妻の顔顯つ
- 。松本 富治
。汝が生きの証となりて歌一首載りしがうれし昭和万葉集
- 。山崎歌人協会 声のひもじかりけり
。寒き夜は布団のすそにうづくまる猫重ければ足を伸ばさず
- 。栗山 節子
。歳月 菊原たか子
。江戦塵 松本 富治
。塗装工 北 隆治
。香を売る硝子ケースの硝子棚ぬぐふ塵さへ香へるものを
- 。ひしひしと迫り来る命終をかくは静けく蟬螂が待つ
- 。杉生 藤原 すみ
。猪の足跡は杉生に入りて消え山に音なく雪降りしきる
- 。残る吾が命に幾度逢ふ秋か谷の紅葉の夕かげり来る
- 。遍路抄 藤村 省三
。漂泊のこころ鳴門の渦潮に揉まるる如く流るるごとく
- 。春夏秋冬 北林 祐道
。現し世にまた見むものか沙羅の花斯く目交に咲き盛りたる
- 。祖父恋し祖母亦恋し後の日の孫等に何と顕たむ己ぞ
- 。ちぎれ雲 妹尾 正三
。下に聞く渓川の瀬の音さびし今し落ちたる螢が光る
- 。夫と商ふ明け暮れにして何時よりか探し合ひる老眼鏡二つ
- 。朱の牡丹 青柳 良
。わだかまる心のいたみ指摘され夕生死流転 杉山 義昭
。木を伝ひ餌場に下る猿の群子を負ひたるが少しおくるる
- 。草の実を数多つけ来し犬抱けばかそかに秋の日差しが匂ふ

- 。木を伝ひ餌場に下る猿の群子を負ひたるが少しおくるる
- 。寒き夜は布団のすそにうづくまる猫重ければ足を伸ばさず
- 。汝が生きの証となりて歌一首載りしがうれし昭和万葉集
- 。栗山 節子
。歳月 菊原たか子
。江戦塵 松本 富治
。塗装工 北 隆治
。香を売る硝子ケースの硝子棚ぬぐふ塵さへ香へるものを
- 。ひしひしと迫り来る命終をかくは静けく蟬螂が待つ
- 。杉生 藤原 すみ
。猪の足跡は杉生に入りて消え山に音なく雪降りしきる
- 。残る吾が命に幾度逢ふ秋か谷の紅葉の夕かげり来る
- 。遍路抄 藤村 省三
。漂泊のこころ鳴門の渦潮に揉まるる如く流るるごとく
- 。春夏秋冬 北林 祐道
。現し世にまた見むものか沙羅の花斯く目交に咲き盛りたる
- 。祖父恋し祖母亦恋し後の日の孫等に何と顕たむ己ぞ
- 。ちぎれ雲 妹尾 正三
。下に聞く渓川の瀬の音さびし今し落ちたる螢が光る
- 。夫と商ふ明け暮れにして何時よりか探し合ひる老眼鏡二つ
- 。朱の牡丹 青柳 良
。わだかまる心のいたみ指摘され夕生死流転 杉山 義昭
。木を伝ひ餌場に下る猿の群子を負ひたるが少しおくるる
- 。草の実を数多つけ来し犬抱けばかそかに秋の日差しが匂ふ

。経典の文字の一字が解けぬ故ほう

せん花赤けれど落ちつきもなし

。いささかの暑さゆるびや一つしか

ならぬヘチマに水やるタベ

。宍粟市教育委員会教育長賞

一人居は淋しくないよと言い切り

し姉の夜更けの電話は長し

垣内 松代

。宍粟市文化協会会長賞

久びさに乗りたるクレーンおもむ

ろに操作する手が勘とりもどす

前川由基夫

。宍粟歌人連盟賞（山崎町のみ）

喜びも悲しみも積むや老人車押し

ておうなは坂道登る

伊野 和子

盆栽に仕立てられたる櫻の木森の

さやぎを聴くこともなし

前田 幸子

ひっそりと使はれてゐる隣の室

「心配ごと相談」の札の下がりて

安東はつ子

踏んばりて立ち上りたるみどり児

の揺れつ人生一步が出ない

栗山 節子

桜咲きうぐいすも啼くおらが里春

の絶景は黄砂にかすむ

小田 博己

水無月のホタル見る度思われる亡

き子の蛍この指止まれ

森元 敏子

港にて魚の乾物を売る老婆一人暮

。佳作
田を干せば足型に寄るおたまじや
くし飛来の鷺よ食うことなかれ
廃業の牛らの靈も供養してこころ
跡にさみしや草の生えそむ

。岡本 光代
向き合ってバラード聞きつつ君と
居た忘れられない亞麻色の夏
南 裕之

各地短歌祭入賞入選作品

◇第三回 宍粟市民短歌祭

（九月九日・宍粟防災センター）

。兵庫県知事賞

表情のかがやきまして難聴の母筆

談に身をのりだしぬ

。兵庫県議会議長賞

「ただいま」と決して戻ることの

ないあの子のために迎え火を焚く

高路ひろみ

。神戸新聞社賞

哀しみは消えることなく過ぎゆき

て亡き夫植えし枇杷の実がなる

滝川よしあ

。宍粟市長賞

水田を鋤くトラクターの音高し村

の空気が動き始める

。宍粟市議会議長賞

吹き渡る風に草刈る手を止めて汗

ばむ野良着のボタンをはずす

山村フサ子

◇西播磨短歌祭

（十月三日・西播磨文化会館）

。奨励賞

川岸にわれ一草となりて聞くかじ

か鳴く声ひぐらしの声
柏野短歌会詠草（新仮名）
夕顔の白を離れぬくま蜂の羽音を
いし農夫の心を癒す

山崎 智絵

在り付きて日毎色増す早苗田に老

いし農夫の心を癒す

栗山 節子

。山本 正子
がれどきを暫し彩る
山ふかく境を標す川の石先人の知
恵いまに伝うる

森元 信代

竹田 長司

いま一度赤い夕日の満州へ共に行
きたき母今は亡し

。川端 紀子

菅谷美津子

夜のとばりが包む

。川端 紀子

子らの吹く笛の音色が公園のたそ

がれどきを暫し彩る

山本 正子

山ふかく境を標す川の石先人の知
恵いまに伝うる

俳

句

山崎俳人協会

青嶺句会 烏 羽 チエノ

- 花の雲鶴籠山を借景に チエノ
- 吟行の小さな句ごころ花ごころ 八重
- 珈琲に多めの砂糖花疲れ 栄子

そぞろ寒あしたのスープ煮込む夜
山中 正子
鎮もれる遺跡の丘に冬日満つ
藤井 七代

たつの市民宿舎志んぐ荘

及び東山公園を訪ねて

四月五日青嶺句会春の吟行日です。

十四名の参加者と共に、志んぐ荘迎えのバスに、車中は会話がはずみます。

清らかな流れの揖保川に添ってバスは進行、道筋の桜は満開です。暖冬のせいか山桜も点描の如咲き満ちています。

- 渡し場の名残りゆかしや初燕 光子
- 珈琲に多めの砂糖花疲れ 栄子
- 渡し場の名残りゆかしや初燕 光子

句会終了後、喫茶室に行きコーヒーセンターフラワーを飲む、句会の緊張がいっきに解けた今日の吟行をなごやかに談笑して帰路につきました。

春の吟行に笑顔で出席された、石野光栄様の俳句が遺稿となってしまいました。御冥福をお祈り致します。

さわらび句会詠草

綿シャツの着心地愛し雲の峰

壇阪加代子

夕立のあと安らぎ茜雲

小林 紫生

翅閉じて蝶も祈るや原爆忌

薄木満寿恵

朝顔の蔓の行方や風のまま

山岸その子

かぐや姫去りゆきし夜のごとき月

本條 淑子

青嶺句会詠草

春雨の降つてゐるとも降らぬとも

芦田 八重

今年米日に一合の身の軽さ

松本 壽子

風に添い雲に添う日々花茗荷

三浦 ゆき

戸を鳴らす夜風も香爛熟し

宗平 圭司

天秤棒腰ふりて行く霧の街

秋久 光子

青嶺句会詠草

春雨の降つてゐるとも降らぬとも

芦田 八重

手の平に豆腐切る朝水温む

川崎 栄子

白秋の歌碑柳川の秋深し

秋久 光子

志んぐ荘四階にて昼食。山菜と、

白魚の鍋。窓から山桜を拝しながら

句会を始めました。

ゆき

花の雲写し清らに揖保の川

川崎 栄子

軋む音釣瓶鳴らして水温む

石野 光栄

春の雨言葉やさしく別れけり

大谷 延子

水温む跳ねつつ鮒の釣られをり

下村 君子

春雨や待ちかねてをり蛇の目傘

茂田 茂太

春風や姿のままに蛸干さる

杉山美保子

笑みうかべ目瞑る地蔵春の雨

田中 良子

菜を洗ふ音軽やかや水温む

鳥羽チエノ

無人駅乗り降りもなく春の雨

永井とみ代

紫に煙る山なみ春の雨

秦 千代

平穏といふも寂しき春の雨

藤家 榮子

故郷の記憶を紡ぐ春の雨

三浦 ゆき

春雨に濡れつゝ慈顏野の仏

福田 泊水

山脈句会詠草

寡黙なる子の手習ひや夕涼し

浅田 燕耕

荒城の月の古城址花万朵

池田 允

螢籠小さき橋を渡り来る

宇野 幸子

郵政も庶民の仲間神無月

栗山きよみ

バス旅行雑魚寝の夜は明け易し

高田 治

土に生き過疎も都の年用意

竹添寿美子

黄落の裾に文殊の水を受く

田中 恵

神の旅瀬戸の海辺の大落暉

福田 祥栄

米寿なほ句を道づれに春の雨

永井とみ代

紫に煙る山なみ春の雨

秦 千代

平穏といふも寂しき春の雨

藤家 榮子



山崎八幡神社能舞台

山崎謡曲同好会
三 谷 恭 三



(藤井慧乘氏 提供)

もない事ではあったが、正直いって手にある御依頼やな、という感じであった。たしかにこの能舞台は元禄十二年（一六九九年）の建立とされ、古くは山崎藩主本多公の奉納能や、近年には昭和五十五年より奉賛会による薪能が催行されているが、

一昨年（平成十八年）の一月であつたと思うが、町内の知人が珍しく我家を訪ねられた。曰く、「八幡さんの能舞台を何とか改修出来んかなア。古いもんやけど、傷みもひどいし楽屋も狭い。資金は用意するさかい、お宮と話をしてあんた事を進めてくれへんか？」これが事の発端であつた。

謡曲を趣味でかじる私としては、神社の役員の一人でもあり、願つて建築で、プランの段階で、数々の障害が目に見えていた。とりあえず、

三〇〇年余の風雪に耐え乍ら、柱・梁にはいたる所に虫食いが認められ、舞台全体も東にやや傾斜している代物で、阪神大震災級の地震でも来れば、ひとたまりもない建物である。

しかし乍ら、本格的な能舞台となれば、資金にしてもどのくらいの金額か、又種々のきまりごとも多い



各地の既存の舞台や文献を調べると共に、実際に京阪神そして遠くは佐渡ヶ島まで足を運ぶこととなつた。調べてみて判つたことではあるが、どの舞台も全て同じということではなく、それぞれに特徴があり、形、大きさはもとより材料まで同じものではなく、特に舞台奥の正面に描かれている老松の図柄に至つては、千差万別で、今回の建物をどうプランニングするかという点では、かえつて迷いを増幅するありさまであった。

いずれにしても、ありがたいお申し出に何とか応えたいとの一念で、



（藤井慧秉氏 提供）

設計と見積りを知り合いの奇麗な工務店の社長に、無料奉仕ということでも頼み込み、ようやく夏の終りに準備を完了した。

名前も金額も一切公表しないといふ約束で、最終的にはこの篤志家にゴーサインをいただき、年の改まつた昨年（平成十九年）三月に起工式を行つこととなつた。元の舞台は切り妻屋根であつたものを入母屋として、今までなかつた地謡座も常設で作りつけ、鏡の間（楽屋）も約十八坪で新設することとし、舞台鏡板もこの際新しく制作することになった。

この老松と切り戸口の竹林の絵の制作については、山崎に縁りの日本画関係の方ということで、思案をめぐらした結果、山崎町出身である京都嵯峨芸術大学杉山真由美准教授と、同大学の協力が得られることになった。実際には、同准教授の原画をもとに、同大学日本画非常勤講師である富沢千砂子氏と同大学大学院生の制作で、大学の教室を借りきつて、壁面の桧板を持ち込み、約一ヶ月半をかけて完成した。

高価な緑青・群青等の岩絵具を用いた、老松の板絵と共に、この能舞台は、平成十九年九月一日さわやか

な初秋の青空の下に、見事に完成の運びとなり、竣工式に引き続き恒例の山崎八幡神社薪能が催行された。

薪能に先立つて、山崎にかねてより

縁の深い能楽師である江崎金治郎師、杉浦豊彦師らにより、舞台披きの謡曲“翁付き鶴亀”を奉納いただき、花を添えていただいた。

この能舞台は、私の知る限り兵庫県下では、神社の能舞台として、最も本格的かつ立派な造りの舞台の一つと自負出来るもので、今後も地域文化・

伝統芸能の振興に寄与する場として、大切に使つていかなければと思つてゐる。また、冒頭の篤志家には「この舞台は、いつでも、だれでもみんなが集まれる場所にして欲しい。カラオケでもコンサートでも何にでも使って欲しい。」とも聞いてゐる。地域の皆で大事に、けれども使いおしみすることなく、コミュニケーションの場として末永い利用を望んでいる。



最後に、この工事に直接、間接にお世話になつた数多くの方々に衷心より感謝申し上げると共に、何より資金を提供いただいたかの篤志家に、改めて心より御礼申し上げる。

研修旅行に 参加して

山崎郷土研究会

宗 平 圭 司

去る九月三十日、会員多数参加のもと本年度の研修旅行を実施しました。行先は県立人と自然の博物館と猪名川町の木喰仏の拝観、そして尼崎市の田能遺跡・同資料館でした。県立人と自然の博物館では、人と自然の共生をテーマに地球、生物・人と自然・新しい文化を主題に構成され、また特別展の丹波恐竜化石と化石工房等、その充実した資料の数々に驚嘆しました。更に古よりの人類の進化と共に、人と自然の共生について深く考えさせられました。

三田市内で昼食後、猪名川町の東光寺に祀られている木喰仏を訪ねました。近江生れの遊行僧木喰仏明満仙人（通称木喰さん）が、全国を旅しながら六十歳を過ぎてから、千体仏の彫像や、にこやかな笑みを浮かべた仏像を、旅先々で数多く遺しています。生涯に歩いた距離は二万頃にも及んだと言われております。

猪名川町には、九十歳（約二〇〇年前）を過ぎてから訪れ、約三か月間精力的に仏像造りに励み、その間

の作品二十六体を同町に遺しています。これらは作者最晩年の最も円熟した作品の事で、おだやかで豊かな表情の微笑仏は私達の心を癒してくれました。みんな笑い顔になつて寺を後にしました。

最後は、尼崎市田能の田能遺跡と資料館でした。昭和四十九年この地で行われた工業用水園田配水場の工事現場で大量の弥生土器が発見され、これらが資料館に遺されています。中でも三点（白銅製鉤他）が県指定文化財として貴重な遺物とされ、他にも住居跡や柱穴・溝などの遺構と、装身具を身につけた遺体を葬る木棺墓の他土坑墓があり、弥生時代の人々の社会関係を知る端緒となりました。

以上のように秋の一日を、会員相互の親睦をかねた本年度の研修旅行を無事終えました。

本会を益々発展させるため、新しく入会下さる方を募っています。老若男女どなたでもお申し出下さい。

よろしくお願ひ致します。



木喰(もくじき)・微笑(みしょう)仏とも呼ばれている

植物同好会に参加して

山崎植物同好会 松 本 壽 子

突然ですが、「スズメノカタビラ」という雑草があります。この草を取りながら何という草だろう、抜けばしつかりと土を絡めてくる。厄介な草。そんなこんな草との格闘をしていました。そんな折、誘いを受け同好会に参加をいたしました。先

ず、その草を持参して「スズメノカタビラ」と教わりました。同好会で見て同好会に参加をいたしました。先

ず、その草を持参して「スズメノカタビラ」と教わりました。同好会で覚えた最初の植物の名前です。参加のたびにその季節の草木、草花等

教わるのですが、参加者の質問にも濶みなく答えてくださる先生の頭の中は、まるで植物図鑑のようだと思っています。数知れない種類の草木の名前を教わるのですが、中々覚えられなくて、そこで、参加をしたら一つは必ず記憶しようと考えました。

以来、相当の種類を学んだと認識しているのですが？？？。

月一回の開催日には先生方から教わる中で、緑の植物の大切さを学び取り、内外の自然破壊を憂いでいる一人です。先日、家島に行つたとき

にも、島が一つ無くなりつつあるのを目の当たりにして複雑な気持ちになりました。

ところで最近「宮脇昭」という植物学者の話をテレビで見聞して、文庫本ではありますが少しづつ読んでいます。ことに樹木の大切さを切々と説いておられます。同好会でもあちこちの神社の森へ案内をして頂き、珍しい巨樹巨木を教わりましたが、

今の現代社会でそれらは大変有意義かつ希少価値のある大切な森だそうです。その先生いわく、人間の顔で言えば、少し触つてもよい頬と触ってはいけない目がある。その目に相当するのが神社の森のような所と書いておられます。

一本の草に興味を持ち以来日々教わる中で、植物はそれ自体で生存が可能であるが人は植物が無ければ生命の保存は出来ないという重要なことを改めて納得しております。

山崎闇齊さんが語りかけていること

新潮会
鎌田裕明

山崎闇齊は山崎の出と言われている。江戸時代に出身地を言う場合、祖父に遡るのが通例で、闇齊さんも自ら『山崎家譜』に祖父淨泉は「播州宍粟郡山崎村に生まれた。」と記している。

さて、闇齊さんは、荻生徂徠の高弟服部南郭をして「この国の学者で朱子が認めるのは、山崎闇斎だけであろう。」と学問の深さを驚嘆せしめた朱子学（儒学）の第一人者である。また、韓国的新進政治学者朴鴻圭をして「理念性と普遍性を土台にして將軍権力を相対化し、思想が現実に対して持つ自律性を先駆的に示した。」と評価させた碩学である。闇齊さんは学識と識見及び氣宇壮大な学の構成に於いて、日本の近世思想史に燦然と輝いている。

儒学の目的は修己治人である。私は・修己とは、自らを修めてよく生きることだと思っている。このテー

マは、ソクラテス以来あまたの学者達が問い合わせてきたのであり、洋の東西を問わず「どう生きるか」は人間存在の意味を問う重要課題であった。ここでは修己に限って闇齊さんの説くところを観てみたい。

闇齊さんは次のように述べている。

生き方の基本は修己であり、修養であり、その根本が敬である。敬は、道の始まりと終わりであり、人間の基本である。これは聖人の教えを貫いており、本来人の心に存し性を養うものである。そして、この「敬」を担うのは、「身」の主宰をなす主体たる内なる「心」であり、自己である。「心」こそが外なる「身」を統括し、他者と関係性を取り結ぶ。かくして「身」を統括する心は自己と他者の関係の有り様を律する心である。人は他者との繋がりに於いて人であり、この関係性の中で自己を確立していく存在である。

私は、「敬」の心を持って自己修養に努め、他の人との関係性に於いて自己を高めていかねばならない。これがよく生きることである。

私は闇齊さんが時代を超えて、このように語りかけているように思えるのである。

一 囲碁のもつ魅力一

常に「質」と「量」について考える

山崎囲碁同好会
北岡修

戦いは質的なものである以上、その「質」を「量」に換算する能力が総合的な棋力に大きく影響する。「質」という眼に見えないものを即「量」という具象的なものとして判断するところに妙味が生まれる。いわば「色即是空」だ。

囲碁の妙諦は何処にあるか。一局の碁の勝敗は、最終的には互に獲得した陣地の多少によって決定される。ただ最後まで盤上では戦いが続く。戦いは盤上に打たれた一石一石の働き具合、即ち効能によって有利、不利の状況を呈する。ところが、その石は盤上に打たれる迄は全く価値を伴わない、いわば効能(0)の無人格である。それが打手の意志によって盤に打たれた瞬間に価値があたえられ、効能(+)(-)が出現する。人格の誕生である。打手の考え方、読みの方向・深さ、相手の打石の意味理解など、自身の人格特質が一石に投射される。

お互に自身の人格特質を一石一石に投射した結果、最終的には陣地の数量の差によって勝負が決定されることになる。「質」的な形で争って「量」的に計算して一局は終る。

序盤から常に形勢判断が必要だが

戦いは質的なものである以上、その「質」を「量」に換算する能力が総合的な棋力に大きく影響する。「質」という眼に見えないものを即「量」という具象的なものとして判断するところに妙味が生まれる。いわば「色即是空」だ。

囲碁が私をひきつける魅力の要素に盤石がある。十九路でもって縦横に引かれた線の交叉点に正円形の石を打つのであるが、碁盤は正方形ではない。長方形なのだ。その長方形の碁盤に正円形の石を打つ。それが不思議にピッタリと石が並び美しい造形が出現する。しかも、その碁石が饅頭形の底が平たくなっているのではなく上下ともに丸味をおびた楕円球で微妙な厚さをもっている。したがって碁石は盤上に置くのでなく「打つ」ということになる。

飴色に輝く、ぶの厚い榧の碁盤に那智黒と日向蛤の白石で打ちあう。打ちおろした瞬間、打手の気合いに応じて石が震えながら清音を発する。光を浴び大石は弱々しい影を盤に落す。曜変天目茶碗に負けない美しさである。姿勢を正して一石一石を丁寧に打つ。棋道といわれる所以。

季節を感じて愉しんで

山崎茶華道協会 春 名 芳 子

木々が芽吹き透きとおるような小

鳥の囀りが聞こえる早春、目に眩しい初夏の新緑、川面の煌めき、濃緑の木陰で蝉時雨を浴びる夏、爽やかな風に薄が揺れる初秋、紅葉の美しさに思わず息を呑む錦秋の頃、南天等赤い実の雪化粧の冬日、四季折々の美しい自然の移ろいを感じ乍らお花やお茶の稽古を愉しんでいます。

活け花や茶の湯の稽古には季節が大切な要素ですから良い季候の時は勿論、暑い夏も寒い冬もそれに習うことは多くそれだけにお稽古が愉しみです。

さて、山崎茶華道協会は発足して四十年になります。大先輩の先生方のご苦労が脈々と受け継がれ、薰り高い文化環境の町山崎の茶華道界を育み人と人の心ふれあう会に築いて来られました。そして、今先輩の先生方のご指導を戴き乍ら自分も学ばせてもらっています。茶華道協会ではさつき祭りに協賛の茶会を夢公園のテント張りのもとで催し、名月の頃には月を愛で乍らチャリティー観月茶会を防災センターで行い、売りも楽しく学びたいと思っています。

上げの一部は社会貢献したいと寄付をしています。毎年茶席を催し寄付が続けて来られたのも大勢の方々の

ご支援のお陰と会員一同心より感謝しています。文化の日には華展と茶会を山崎文化会館で催します。この年三回の茶会は椅子に腰掛けてお抹茶が戴ける立礼席に設えて、若い方やお子様連れのパパ・ママさん、正座は足が痛いとの方々にも好評で気軽に一服のお茶を楽しみにお越し頂いています。

奈良時代遣唐使や中国・インドから來朝した僧侶がもたらし、鎌倉時代に宋の國から栄西禪師が持ち帰った茶の実が育つて日本の茶が始まると言われるお茶は當時より永い間貴重な薬だったそうで、今もお茶は健康に大変良いとされています。忙しい毎日ですが、時には体に良いお茶をゆったりと味う一時は気持ちも落ち着きます。雄大な自然が私達を潤してくれるよう心なごむお稽古を通して自然への畏敬の念を抱きつつ季節感を大切にして辿々しい乍ら

人生雜感

昭和会 山下直昭

「昭和会」という団体があり、私はその会長を務めさせて頂いている。

「昭和会」は昭和三十一年に発足し、現在三十一名で構成されている山崎では名が知られた団体である。この会は、会員相互の交流により親睦を深めることに重点が置かれており、併せて、著名人の講演等を通じて教養を高め、見聞を広め、知見を陶冶することがこの会の目的であるとされている。

ところで、「昭和会」の発足が昭和三十一年ということは、今年満五

十一年ということになる。五十年と

いうと、信長が、「桶狭間」の合戦

に当たって舞った、敦盛の『人間五

十年、下天の内をくらぶれば、夢幻

のごとなり。ひとたび生を享け、

滅せぬものあるべきか』といふ言

葉が浮かぶ。この言葉は様々に解釈

されるが、「如何に人の命が儂いも

のであるか」ということであり、又、

人生は、その間にすべきことをす

るにはあまりに短いものである。」

との意であると解される。

長い間、人類は寿命五十年に満たない歴史を刻んできた。五十年を超えるに至つたのは、日本ではほんの明治以後、しかも、戦後の現在に至

るわずかな期間に過ぎない。私は、十代の終わりに、青春時代にありがちな思い、「人生とは何ぞや」とか、疑問を抱き、煩悶し、私なりに一応の結論を得、その後はその目的に向かって、今に至る人生を歩んできたつもりである。この命題は人間にとつても永遠の課題であるが、今に生きる殆どの人も、この疑問を抱きながらも、その答を得ないまま、又は、この疑問を抱かないまま七十～八十

年の人生を終える。

今、ここで、これに対する私の結論を述べるのはしばらく措く。私の人生は決して人に誇るほどのものではなく、失敗の連続であったが、自分なりに精一杯、未熟ながら力を尽くして生きてきたと思っている。も

ちろんこの間には、諸先輩に恵まれ、多くの方々から温かいご支援を頂いたことに衷心より感謝を申し上げた。

い。殊に、当初、私自身、生きる方向を見失った感さえもあった時に、この「山崎」の地に生きる道を与えたことは、まさに幸せであります。この山崎は山間の地にありながら、進歩的で、発展的な開かれ

た都会の空気をもっており、私にとっては、この地に生き、自分の職業を

通じてこの山崎の地で人生を捧げる

ことに喜びを感じている。

未だ若輩の身、「山崎」を終の住処とし、微力ながら昭和会を通じて地域への貢献に力を尽くしていきた

市展に思う

山崎美術協会

福岡久藏

第三回宍粟市美術展が平成十九年十月三十一日から十一月四日まで、防災センターであります。作品は写真・日本画・洋画・書・工芸の五部門で二百点余りが展示されました。作品はところせましとばかりに、ひしめくように並べられ、大変に盛会でした。

ところが後でわかったことです、お隣の佐用町の展覧会で賞を取った作品を少し手直しして出品された方があり、それが宍粟市展でも賞を取つたということがあつたのです。

出品された方は、手直ししたから同じ作品ではないといわれるのですが、出品ではないといわれるのです。

この話を聞いて、誰も良い気持はしません。悪く言うと、「賞稼ぎ」とか「売名行為」といわれても仕方がないように思います。

「うまくやつた」とか「得をした」など「分からなければ何をしても」

ということは、余りにも浅ましく、情けなく、淋しい感じさえします。

ものはつくる、創造するということは真善美的追求です。つまり、芸術や文化に触れる、携わるということは謙虚に、おくゆかしさや心の豊かさを希求して行くことだと、私は思っています。

今回の市展で何よりも嬉しかったことは、八十二歳の福岡幸四郎さんが工芸の部で、作品「蒔絵印籠掛」で市長賞をとられたことです。

蒔絵というと、極めて細い線を引いたり、小さな部分に色付けしたり、それはそれは大変な世界のことと思つていましたが、八十を過ぎて、なお、すばらしい作品を作ることができるのですね。でも幸四郎さんだからであります。休み時間には先生にお茶を入れて頂いたり、ある時に生徒から先生にお茶を出すのが当たり前と言われその事に気付きました。私も新入生に伝えて、司友会を和氣合々で会員数も十五、六人になりました。

その後福山先生の奥様が亡くなり、先生の娘さんが明石におられるよう、先生も娘さん宅に行かれました。先生のお言葉で「尾島君山崎町より尺八の音色を消さないようにして下さい」と言わされました。いまだ

細かい意匠づけにも感心させられた」と言われています。その他の先生方も「眞面目に取り組んでいる作品が並べてあり、とても印象的だった。審査員の伊藤誠先生は「いかにも日本の漆芸を代表する伝統の品々が

ござります。私がこれまでお見かけした中で最も印象的だった。

私が相談したところ、先生の紹介で大阪から山崎に来られた、千田淳平さんと出会い、「ピアノと尺八でやってみましょう」と言われ、悪戦苦闘で私も前に進まず、千田さんは気を長く付き合つて頂きました。

メンバーも、伊藤君、松岡君、大部君と五名で、楽団名を付けようとすることになり遊びに来ておられた願寿寺住職の藤井先生が、「バンブーファイブ」と名を付けて下さいました。以後メンバーも何名かになり、バーンブーファイブは「竹」、ファイブは「尺八の穴」を表しています。バンブーファイブも常に楽しく週一回練習を重ねています。

最後に、古典楽器の尺八をやって下さい」と言わされました。いまだにその言葉が心に残っています。先輩の北川さん、深瀬さんも亡くなられて今山崎町の尺八を吹ける方は十名ほどではないでしょうか?

私も若い人五、六人に教えています。

尺八と洋楽器の出会い

バンブーファイブ 尾島忠義

私と箏そして想い

絵夢の会 岡 本 美 穂
山崎邦楽邦舞研究会

「箏を弾きたい」と思ったのが小学校二年になる春、もう四十年も前の事、遊びに行つた親戚の家に従姉が習っていた箏があったのです。初めて触れた楽器で「さくらさくらやよいのそらは」と教わりながら弾いたのがキッカケでした。実家のすぐ近くに良い先生が居られたのも恵まれていたと、今になりつくづく思う事です。

習い始めてからは週一回のお稽古日が待ち遠しく嬉しかったものです。時がたつと共に「あの人のように上手に弾きたい、早くあんな曲が弾けるようになりたい」と欲も出てきますし、師匠の稽古も中学生、高校生と大きくなるにつれ厳しくなりましたが、上達してゆく喜びがあり一度も辞めたいと思う事もなく高校三年の冬、職格試験を経て「菊智保」という称号を頂くに至りました。その時点迄は目標に向かって真っ直ぐという流れでしたが、社会人となり仕事で疲れるようになると「もう

少し気持と時間に余裕が出来てきた四十歳を目前にした頃、又「箏を弾きたい」という思いが湧いてきたのです。長いブランクがありましたがなんとか今弾けるのも、昔の厳しい稽古のおかげと感じています。

「和樂器は日本人の心のよりどころ」だと思っています。お箏が縁で沢山の人との出会いもありました。同じ意識を持ち共有する時間は小さな幸せと感謝の心を持たせてもらえた瞬間です。誰もが気慌しく暮らす時代、都市、地方に関係なく殺伐とした事件が絶えない今、ほんの一瞬でも立ち止まって心を休められるよう、一人でも多くの人の心の琴線に触れる音を奏でたいと願う今日この頃です。

私が従姉の家でお箏に触れたのがキッカケとなつたように、子供や若い人たちが和樂器に親しめる機会が増える事を願います。私のように若い頃お稽古をされていた方、お家でお箏が眠つていませんか?又弾いてみませんか!

歌う」との幸せ

町民合唱 小 畑 芙美子
山崎町合唱連盟

私達町民合唱は十一月三日の秋のふれあい文化祭、三月の宍粟の森合唱祭に向けて練習を続けています。二〇〇七年のふれあい文化祭の曲は「かわいいかくれんぼ」と「千の風になつて」を合唱しました。話題曲「千の風になつて」は愛する人を亡くした人が涙し、慰めを得る風のような美しい詩です。その詩に作曲家、新井満さんが曲をつけて多くの人の心を引きつけました。そういう思いを抱きながら心をこめて歌いました。私達のコーラスが聞いて下さった人にどのように響いたでしようか。次の三月の合唱祭には混声合唱で「落葉松」を歌います。合唱の代表曲でもあるこの美しい曲を歌える幸せを感じながら練習をしています。三月の合唱祭には皆の心を一つにして満足のできるようがんばりたいと思っています。



音楽があつた事が大きな喜びです。

これからの方々にも音楽のすばらしさ、喜びを知つて頂き、人生をより豊かにしてほしいといつも思つています。しかし今、私達町民合唱も新しい方の入部も難しく、会員の身体的な事もありだんだんと人数が少なくなっている事がとても気がかりなのです。でも少人数であつても美しいハーモニーが出せるように、そして仲間達の和を大切に、楽しみながらやっていきたいと思っています。

最後になりましたがいつも熱心に指導してくださる栗山祐子先生、ピアノ伴奏の長井美江先生に感謝しています。

徒然親心

和太鼓教室子どもの部 石崎道雄

わが家の娘達は、太鼓と合唱団に通っております。本人達はただ好きで毎週楽しく通っています。

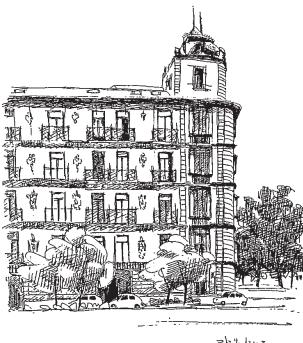
しかし、親の私達には少しだけの期待と目論見があります。

それは無いものねだりなのですが、この子達が大人になって必要になるであろうと思う「学力ではない頭の良さ」や「バランス感覚と自己表現力」を身に付けて欲しいということです。

その二つを感じてもらうのに「太鼓」と「合唱」は、とても為になるのではないか。

太鼓の持つ力強いリズムと、汗をかいて表現する事の楽しさや、合唱での自分のパートを見失わずに、大きな声を出して表現することの楽しさ、そのどちらにも必要な協調性を、学んでくれたらと思います。

勿論、知識を豊富に持つて欲しいですし、学力もつけて欲しいのです。が、その前に基本の基本として、言つて聞かせていることがあります。



地域を代表してきたサツキ

播磨さつき会 田口 實

今年で山崎さつき祭りも、第五十

が紅に紅紫に美しく咲く。

回を迎えることになりますが、会員の老齢化による減少と、時代の変遷

このサツキがわが国で文献に現われたのは、天平五年（七三三）に成

に伴い、古来の盆栽より、手軽に出

立した出雲風土記に「茵草」として

来る草花や、山野草のプランターを利用した寄せ植えなどが、老若問わ

ず女性に大人気であることは、世代間交流と地域内コミュニケーションの場づくりに継がっていることなど評価すべきであります。

しかし、何処の家庭においても大

市営サツキセンターにある樹齢の推定もさることながら古木がたくさんあります。この肥培、管理が大

きつと自分の親も、こんなことを思ひ悩みながら、自分達を育ててくれたのだなと、痛感する毎日です。

でもきっといつか、太鼓で身に付けたりズム感と、合唱で身に付けた協調性を、フルに使ってこれから時代を、時々つまずいたり、廻り道をしながらでも成長して欲しいもの

をしながらでも成長して欲しいもの

定や切りかえし、植え替え、防除と怠ることはなりません。

市花ササユリと共に地域自慢の

趣味を通じて会員相互の親睦をはかりつつ、広く世代間交流、環境づくり、地域内の元気（活力）づくり

を目標にやろうとお思いの方は、一報いただきますれば幸いに存じます。

サツキの歴史をたどれば、ツツジと混同していた時代も永く、山野に自生したツツジが歌に残され、現在に至つており、桜と共に春が訪れた山野にヤマツツジを始め、モチツツジ、キシツツジ、サツキツツジなど

若い人達と一緒に！

山崎民謡連合会

「山っ子会」

梶本しげの
河瀬ルイ



民謡山っ子会に入会して十年余りになります。私達二人は八十歳を過ぎ会の中では最年長です。なかなか上達しませんが、若い人達と一緒に楽しんでおります。民謡には全国各地の盆踊り唄や仕事唄があります。中には沢山の方言が入っている歌もあって理解に苦悩しながら「ボケ防止」とでも言いましょうか：歌詞を覚えたり節を習ったり：足手まといになりながら、いろんなイベントに行ったり参加したり。でも山っ子会の人達が皆んなやさしくしてくれます。大きな声で笑ったり、舞台に出てチヨッピリ緊張したり。子供や孫のような人達との教室は、とてもなごやかで、出かける時は足が重くとも、帰つてからは、今日も行つてよかったです。いつまで続くか、続けられるか、わかりませんが、細く長くで行きたいと思います。

川柳破丸会

山田醉仙

川柳破丸会も、平成二十年一月で百七回目を迎える事になりました。

会員夫々が、身辺の事、世相につ

浩会、山っ子会と三団体で頑張っております。それぞれ和やかな雰囲気で楽しくやっています。また、のぞいてみて下さい！

川柳がどんなものが一度、会を見学して下さい。歓迎いたします。

百グラム減らす努力に胃は涙

岸本 新風

よつこらしょやつと立つたらオットット

子も育ちあこれからは育毛だ

香山 鈎遊

田舎道運転手だけのバスが来る
価値感の違い認めていい仲間

是兼 芽吹

料理メモ記入半ばで画面消え
美容院鏡同士で話する

志水亀の子

出て行くと言ったが引き止待つてい
る

何十年経っても腹の虫はおり

清水 三省

悪いとこ遺伝子のせいと子らは言う

田中 万来

就職に恰好付けたが試験ダメ

若者はお茶の稽古も背なを出し

谷川そよ風

ひとめぼれ喜び振り向きや米のこと

マスコミは噂消さずに火に油

いて感じた事など、自由に面白く、
五七五の歌にして持ち寄り、選句し

て楽しい会にしています。

これからも番傘川柳会の様に永く

続く会にしたいと思ってます。

川柳がどんなものが一度、会を見

学して下さい。歓迎いたします。

川柳がどんなんが一度、会を見

学して下さい。歓迎いたします。

稼いでももういいですよと言わぬ妻

稼やかに話題花咲く偲ぶ会

谷口 柳幸

期待した頬みの綱の細いこと
風向きを察知した人雲隠れ

千本 花夢

腰痛と足痛の人口達者

眠らんと思い込むほど頭さえ

坂東 美雅

無駄骨を折つても行くのが接骨院

おじさんはフェロモン嗅いでふらつ
います。

合唱団と私

山崎児童合唱団

山崎小学校六年

堀 このみ

私は、一年生の時に入団しました。みんなやさしくしてくれて、私も高学年になつたらこんなやさしいお姉さんになりたいなと思っていました。

先生方もやさしく教えて下さって私は合唱団に行くのが大好きでした。歌をきれいに歌おうと思えば、一人だけ大きな声を出しても、気持ちをこめないで歌っても、きれいには歌えません。みんなの心が一つになつて気持ちをこめて歌えばきれいな歌になるのです。先生に「今日は、きれいな声だね。」といわれた時は、みんなの心が一つになつたんだなと思います。

合唱団に入つてから、変わった事があります。それは、人前でもはづかしがらずに大きな声が出せるようになつた事です。本当に六年間合唱団を続けてよかったです。先生、合唱団のみんな本当にありがとうございました。



民踊で年齢忘れる

さつき民踊グループ

大 西 タツエ

回りを見ると皆さん色々なサークル活動をしておられました。私も何か

しないと、と思っていた三年前のこと、文化会館で芸能祭と文化祭を見せて頂いて「さつきグループ」の皆

さんが楽しそうに踊つておられたの

に惹かれました。気軽な気持で友人

と二人でお願いし、グループに入れ

て頂きました。御指導して下さる先

生は、岸本幸子先生だとお聞きして

おりましたが、坂東流の坂東寿賀幸

師匠さんでした。高名な師匠のもと

で御指導して頂いております。先輩

の方々の足手まといにならないよう

に努力しております。グループの皆

さんも和氣あいあいの中にも緊張感

があり、週一回の楽しい時間です。

素晴らしい先生にめぐり会えたこと

に感謝しております。春と秋には文

化会館の舞台で発表会に出させて頂きました。また老人施設からお招き頂き踊り



のお稽古をさせて頂いております。

先輩にはまだまだついて行けませんが、みなさん励ましの言葉をかけて頂き勇気づけられてお稽古をしております。感謝しております。これ

からも頑張りますのでよろしくお願

いします。今月より仲間が一人出来ました。楽しくなりそうです。

詩吟、四方山話

山崎詩舞道連盟 小川 登

平成十九年度の歩み

行事を活性化させる取り組みも続けています。

平成二十年は二十周年を迎え、記念事業を計画しております。五周年

私と詩吟との出会いは、私が理事をしていました、山陽信用組合の隣家に、船越山瑠璃寺の別院の住職である正木法隆先生が住んで居られた関係で、其所へ、日本吟詠連盟の常任理事である桧垣賀陽先生が東京からの帰途、

必ず立ち寄っていたので、正木先生と共に数名の者が、桧垣先生のご指導の下に詩吟を勉強するようになつたのが始まりでした。桧垣先生は賀堂流中国本部の会長もしておられました。従つて、篠乃丸吟詠会は中国本部に所属していたのですが、桧垣先生が亡くなられたので、其の後、近畿本部へ入る事になりました。篠乃丸が小さい乍らも、賀堂流近畿本部の四本柱と言わっているのは、姫路、西播、福崎と並んで四個の吟詠会に数えられているからです。特に出発点で日本吟詠連盟の常任理事である、桧垣賀陽先生の御指導を頂いたと言う事は吟界の名門中の名門と言う事が出来ますと言つています。

吟詠会も浮き沈みがあり最盛期には山崎町内だけで三、四百名も会員

がいたと思います。篠乃丸吟詠会だけでも百数十名を数えたと思いますし、吟詠だけで大会を開く事が出来ました。現在の芸能祭の発端は（私の記憶に誤りが無ければ）吟詠会が発端だと思います。其の後、扇舞が加わり、民謡が加わる等して、現在の芸能祭に至つたのです。民謡を芸能祭に参加して頂く時には、反対意見も多く、民謡に古いものはあるのかと反対意見を出された人に、民謡に新しいものがありますかと、笑い乍ら申し上げた処、反論は無く、民謡の芸能祭参加が決まりました。

其の後、回を重ねるに従つて、民謡や、歌謡曲の参加者が多くなり、詩吟は段々と減少し、芸能祭の中でも極く一部にすぎなくなりました。

文字通り「芸能祭」となり参加者とともに、観客も増加し発展を遂げています。大変良い事であり、喜ばしい事だと思います。そうした中で、詩吟も尚、命脈を保っています。

吟詠の益々発展する事を祈念しつ筆を描きます。

記念事業は関西学院グリークラブコンサート、十周年記念事業は和太鼓演奏、十五周年記念事業は新垣勉コ

ンサートを、無料もしくは低料金でご覧頂き、皆様の募金を募り、盲導犬支援を始めとして、障害者支援に役立てもらっています。

毎月、例会を行い、多岐にわたる分野で様々な外部講師を招聘し、会員の資質向上の為に研鑽を積んでいます。

十九年度は、宍粟の医療体制、広島県クベエーレ吉和の美術館見学、大飯原子力発電所の見学、日本刀の歴史、水ノ山スズコ取り体験、男の料理教室などの研修をしたのです。

二十周年記念事業を楽しみにして頂きたいと思います。

六月には、恒例になった「平成会ジャガイモ農園」を、山崎地区を中心とした幼稚園、保育所に開放し、園児達にジャガイモ掘りを通じて自然の恵みを伝える取り組みをしていきます。掘ったジャガイモでカレーライスを作つてもらい、余った芋はお土産にと喜んでくれているようです。

また、山崎八幡宮に於いて大晦日からのカウントダウンと年越しそばの振る舞いをし、地域の人に新春の



宍粟市山崎文化協会

役員及び団体名

監事	会長	藤井 藤村	慧乘	理事	会長	藤井 藤村	慧乘
庄 清	副会長	福岡 伊野	清一	副会長	福岡 伊野	清一	副会長
前野 青三	井口 宗平	武一	井口 宗平	武一	井口 宗平	武一	井口 宗平
田口 澄之	町 町	耕三	町 町	耕三	町 町	耕三	町 町
西岡 行男	栗山 栗山	和彦	栗山 栗山	和彦	栗山 栗山	和彦	栗山 栗山
片山 澄也	竹添 竹添	節子	竹添 竹添	節子	北川 北川	泰子	北川 北川
西岡 行男	谷川 谷川	耕三	谷川 谷川	耕三	藤村 藤村	清一	藤村 藤村
前野 達也	伊野 伊野	隆溥	伊野 伊野	前野 前野	伊野 伊野	前野 前野	伊野 伊野
田口 薫	長田 長田	孝	長田 長田	前野 良造	谷川 谷川	谷川 谷川	谷川 谷川
西岡 行男	井上 井上	操治	井上 井上	谷川 谷川	山崎歌人協会	山崎歌人協会	山崎歌人協会
秋久 光子	前野 前野	昭和会	前野 前野	谷川 谷川	山崎茶華道協会	山崎茶華道協会	山崎茶華道協会
西川 康子	西川 康子	山崎俳人協会	西川 康子	谷川 谷川	山崎囲碁同好会	山崎囲碁同好会	山崎囲碁同好会
福岡 久藏	福岡 久藏	さつき民踊グループ	福岡 久藏	谷川 谷川	山崎美術協会	山崎美術協会	山崎美術協会
大部 正勝	大部 正勝	バンブーファイブ	大部 正勝	谷川 谷川	山崎邦楽邦舞研究会	山崎邦楽邦舞研究会	山崎邦楽邦舞研究会
石野 和雄	石野 和雄	山崎詩舞道連盟	石野 和雄	谷川 谷川	播州山崎太鼓	播州山崎太鼓	播州山崎太鼓
西岡 行男	西岡 行男	山崎町合唱連盟	西岡 行男	谷川 谷川	山崎民謡連合会	山崎民謡連合会	山崎民謡連合会
前野 良造	前野 良造	播磨さつき会	前野 良造	谷川 谷川	川柳破丸会	川柳破丸会	川柳破丸会
庄 清	庄 清	平成会	庄 清	谷川 谷川	省三	省三	谷川 谷川

「宍粟市文化協会と地区文化協会」
平成十七年七月、宍粟市誕生の年に宍粟市文化協会は発足しました。
それまでの郡内各町文化協会は各地区文化協会となり宍粟市文化協会の下部組織として位置づけされました。
これまでの郡内各町文化協会は山崎、一宮、山崎町合唱連盟、播州山崎太鼓、山崎邦楽邦舞研究会、山崎詩舞道連盟、山崎民謡連合会の四団体で構成されています。初代会長には大成みちよ波賀文化協会長、事務局も波賀文化協会事務局が就任、そして今年度からは藤井慧乘山崎文化協会長が二代目会長に就任、事務局も山崎文化協会事務局が務めています。

事務局だより

「宍粟市文化協会と地区文化協会」
平成十七年七月、宍粟市誕生の年に宍粟市文化協会は発足しました。
それまでの郡内各町文化協会は各地区文化協会となり宍粟市文化協会の下部組織として位置づけされました。
これまでの郡内各町文化協会は山崎、一宮、山崎町合唱連盟、播州山崎太鼓、山崎邦楽邦舞研究会、山崎詩舞道連盟、山崎民謡連合会の四団体で構成されています。初代会長には大成みちよ波賀文化協会長、事務局も波賀文化協会事務局が就任、そして今年度からは藤井慧乘山崎文化協会長が二代目会長に就任、事務局も山崎文化協会事務局が務めています。

事務局長 前野良造

「やまさき文化」編集委員

編集長	浅田 浅田	委員	荒木 荘	編集長	安井 安井
会計	西川 西川	委員	芦田 芦田	会計	前野 前野
		委員	八重 八重		同次長
		委員	節子 節子		井口 武一
		委員	泰子 泰子		井口 武一
		委員	清一 清一		佳代
		委員	悦子 悅子		(敬称略・順不同)

いては準備段階から色々と議論があり発足後にアンケート調査等で組織・運営についての意見収集を行った結果、当面は現在の各地区文化協会の連合体的形態で運営していくこととなりました。これは各地区文化協会が各自の地域に根ざした文化活動に注力され、主催事業や運営方法等もそれぞれ特徴があつて異なるため、無理な統合で混乱や活動の停滞につながることを避け各地区的主体性を尊重しようとの思いによるものです。一方、地区に特定しない市全体としての文化活動、例えば「宍粟美術展」「しそうの森合唱祭」など現在五つの事業に対して宍粟市文化協会は補助・支援を行っており、今後も市域全体にわたる活動や交流については積極的に支援・推進していくことをとしています。

各地区文化協会所属団体の中には同じジャンルの文化活動が見受けられます。そのような団体がお互いに横の連絡を取つていただき発表会の共催や交流を盛んにしていくことが文化の深耕と活動の活性化になります。各地区文化協会の進める地域毎の活動と市域全体に及ぶ文化ジャンル毎の活動を縦と横の軸として市域全体の文化活動振興に繋がつて行くことが望まれます。

集後記

城下町に芸能がさかんなのは江戸時代の名残り、という論をきいたことがあります。寄せられた各パートの報告文を読ませて頂くと、なるほどどうなずかされます。

卷頭作品「ブラジルにて」は、これ迄の当誌掲載の作とは趣を異にしたもので甚だ興味深い内容です。明治以降、日本とは浅からぬ縁を結んだこの異国があやしい内情に今更ながら驚かされ、幾多の課題をかえながらそれでもまだ平穏な日本という国の有難さを痛感します。

松井画伯の追悼記を前号で書いて下さった町出身の彫刻家富和昭弘氏の「飲んだらり、だらだらと」、軽妙にしてユーモアに溢れながらその底に創作の苦悩を沈めたような一文によって当誌の内容がより多彩なものになりました。

なお、既刊に倣つて題字は荒木さん、表紙絵、カットは福岡さんにお願いしました。

執筆に御協力下さいました各位に謹んであつく御礼申し上げます。

編集長 浅田耕三



TOKIISHI

飛石機械産業 からのお願い

人が人として幸せになれる処方箋は何なのか、そのようなことを考え「幸福の泉」を生活信条に、自作自演で40数年を歩いて参りました。昭和46年、会社発足時に経営理念と改め、お客様のご信頼にお答えする為に、一人の人間として使命感に燃え、それを無限のエネルギーとして全社揚げて取組んでおります。

当社では、企業は社会の公器でなければと申し上げており、流通の世界の中で生活文化の向上を願い、多目的に活躍しておりますので、尚一層のご支援をお願い申し上げます。

◆最新型カラー現像機導入◆

カラープリント・スピード仕上げ
良い品を・安く・安心して買える店



アニアカメラ *Specialty Camera Shop*

宍粟市山崎町東鹿沢26-3 本店 TEL(0790)62-2089
咲ランド店 TEL(0790)63-0533

料理旅館・割烹

創業
文久元年

菊 水

兵庫県宍粟市山崎町山崎 287

TEL (0790) 62-1119代

幸

せ 幸せへの旅立ちに――。

ふじむら貸衣裳

宍粟市山崎町山崎181 TEL(0790) 62-0052

デンソー指定サービスステーション
自動車電装品整備・携帯電話代理店

ケイメウチ電装株式会社

本社・工場 兵庫県宍粟市山崎町今宿 98-15

TEL (0790) 62-1607代

太子営業所・姫路営業所・神戸営業所・福崎店

用途に合わせて
にしん個人ローン
 ●住宅ローン ●フリーローン
 ●マイカーローン ●カードローン
 ●学資ローン

・豊かな老後生活のために
 ・資産の効率運用に
にしん個人年金保険
 ●定額年金保険
 ●変額年金保険



豊かな街づくりをお手伝いする

西兵庫信用金庫

<http://www.shinkin.co.jp/nisisin/>



一献献上 品質本位

まごころを伝えます。

T E L. 0790(62)1010
F A X. 0790(62)6218



確かな品質と味わい。



SANYOHA I
山陽盃酒造株式会社
兵庫県宍粟市山崎町山崎 28

環境と家計にやさしい給湯器!

CO₂
削減

光熱費
カット



省エネ基準
112%達成

ecoジョーズ

お車と住まいの快適、なんなりと

ホンジョウ

(株)本條商店・ホンジョウプロパン(株)
本社 宍粟市山崎町中井 96

●石油・タイヤ・自動車用品 ●ガス・水道・住設リフォーム
0790-62-4321 **0790-63-1234**

創業明治28年・さつき本舗

四季の菓子

御進物・おみやげ・お茶うけに、四季折々の
真心こめた手づくりの御菓子を

本店：播州山崎町さつき通り（電）0790-62-0170
山田店：播州山崎町山田（電）0790-62-0160
福崎店：福崎町西田原 1177（電）0790-22-7555



御菓子司
さつき



パソコン・OA機器・事務用品・スチール家具
各種修理・学校設備品・理化学機器

イトーオフィスサービス 株式会社

山崎町中広瀬117-12 夢公園南隣 T E L (0790) 62-0126